

宮崎県感染症週報

宮崎県感染症情報センター
宮崎県健康増進課
宮崎県衛生環境研究所

■ 宮崎県第 37 週の発生動向

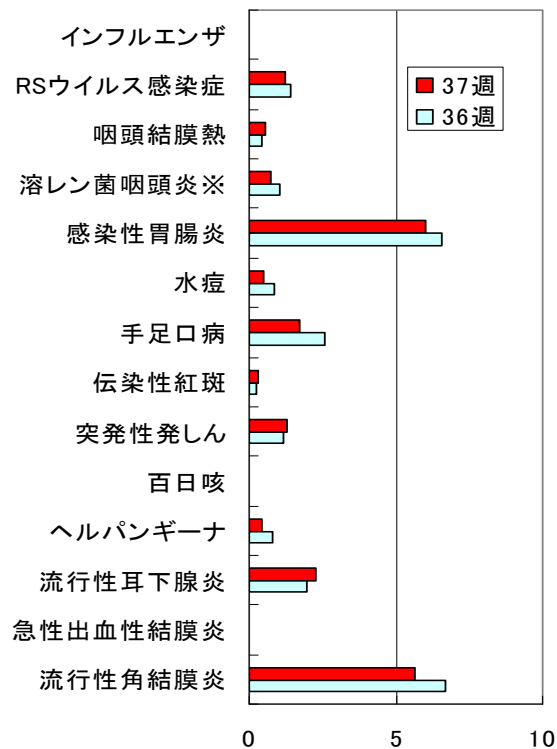
定点医療機関からの報告総数は 575 人（定点あたり 20.7）で、前週比 87%と減少した。

先週に比べ多かった主な疾患は咽頭結膜熱と流行性耳下腺炎で、減少した主な疾患は水痘とヘルパンギーナであった。

咽頭結膜熱の報告数は 20 人（0.56）で前週比 125%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（0.65）の約 9 割である。日南（3.0）保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では 6 ヶ月から 1 歳で全体の約 6 割を占めた。全て 6 歳以下の報告であった。

流行性耳下腺炎の報告数は 82 人（2.3）で前週比 115%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（1.3）の約 1.7 倍と多い。延岡（7.0）、日向（6.5）保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では 2 歳から 6 歳で全体の約 9 割を占めた。

《前週との比較》



《定点あたり報告数》
※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

■ 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年 齢 分 布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
咽頭結膜熱	3	0.56	日南(3.0)	6ヶ月～1歳で全体の約6割を占めた。 全て6歳以下の報告であった。
流行性耳下腺炎	6	2.3	延岡(7.0)、日向(6.5)	2歳～6歳で全体の約9割を占めた。
流行性角結膜炎	8	5.7	宮崎市(9.3)	10歳未満で全体の約3割、20歳代～40歳代で全体の約4割を占めた。

※流行性角結膜炎は、平成22年9月10日から流行警報発令中です。（終息基準値：4）

※手足口病は、平成22年6月3日に流行警報開始基準値5を上回ったので流行警報を発令しましたが、第37週において終息基準値2を下回った（1.7）ので、警報を解除します。

■ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 3 例が都城 (2 例)、日南 (1 例) 保健所から報告された。
《都城保健所》・70 歳代の女性で疑似症患者。ぶどう膜炎がみられた。
・30 歳代の男性で肺結核。発熱がみられた。
《日南保健所》・60 歳代の女性で肺結核。
- 3 類感染症 : 腸管出血性大腸菌感染症 1 例が都城保健所から報告された。1 歳の女児で水様性下痢、血便、発熱がみられた。原因菌の血清型は 0121 (VT 産生)。
- 4 類感染症 : 報告なし。
- 5 類感染症 : 報告なし。

■ 全国第 36 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 10.1 で、前週比 99%であった。今週増加した主な疾患はRSウイルス感染症とインフルエンザで、減少した主な疾患はヘルパンギーナと伝染性紅斑であった。

RSウイルス感染症の報告数は 568 人 (0.19) で、前週比 158%と増加した。例年同時期の約 1.5 倍である。宮崎県 (1.4)、佐賀県 (1.3)、鹿児島県 (1.2) からの報告が多く、年齢別では 2 歳以下で全体の約 9 割を占めた。

インフルエンザの報告数は 202 人 (0.04) で、前週比 133%と増加した。沖縄県 (0.71)、山口県 (0.21)、新潟県 (0.17) からの報告が多く、年齢別では 5 歳以下が全体の 23%、6-9 歳が 17%、10-14 歳が 15%、15-19 歳が 6%、20-50 歳が 28%、60 歳以上が 11%を占めた。

□全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 350 例
- 3 類感染症 : 細菌性赤痢 4 例、腸管出血性大腸菌感染症 190 例、腸チフス 1 例、パラチフス 4 例
- 4 類感染症 : A型肝炎 2 例、つつが虫病 1 例、デング熱 6 例、日本紅斑熱 4 例、日本脳炎 1 例、マラリア 1 例、ライム病 1 例、レジオネラ症 17 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 15 例、ウイルス性肝炎 2 例、急性脳炎 1 例、クリプトスポリジウム症 4 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 3 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、後天性免疫不全症候群 11 例、梅毒 7 例、破傷風 1 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 例、麻しん 7 例

■月報告対象疾患の発生動向 <8月>

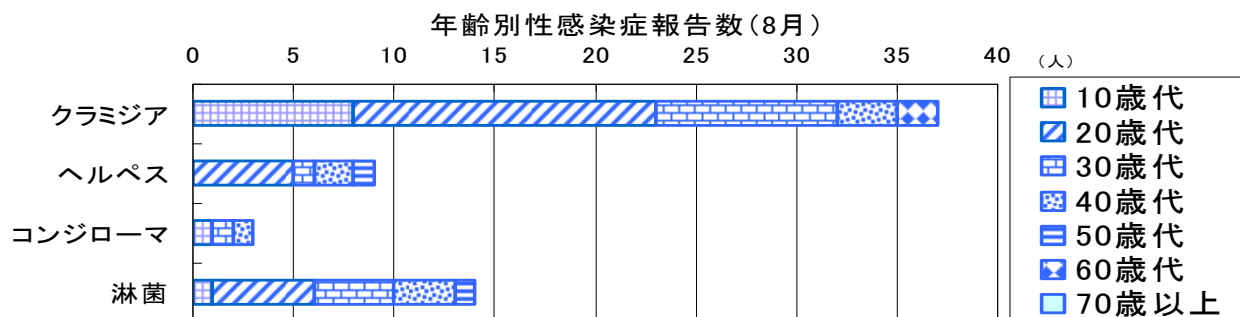
□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は63人（4.9）で、前月比170%と増加した。昨年8月（4.3）の約1.1倍であった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数37人（2.9）で、前月の約1.4倍、前年とほぼ同数であった。都城（6.0）、日向（5.0）、日南（4.0）保健所からの報告が多く、男性22人、女性15人で、20歳代が全体の約4割、10歳代・30歳代がそれぞれ全体の約2割を占めた。
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数9人（0.69）で、前月の約9倍、前年の約1.8倍であった。男性4人、女性5人で、20歳代が全体の約6割を占めた。
- 尖圭コンジローマ：報告数3人（0.23）で、前月の約3倍、前年の約1.5倍であった。男性2人、女性1人で、10歳代、30歳代、40歳代がそれぞれ1人であった。
- 淋菌感染症：報告数14人（1.1）で、前月の約1.6倍、前年の約1.2倍であった。男性13人、女性1人で、20歳代が全体の約4割、30歳代が全体の約3割を占めた。



【全国】 定点医療機関総数：964

定点医療機関からの報告総数は4,453人（4.6）で、前月比99%であった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,293人（2.4）で前月比100%、性器ヘルペスウイルス感染症746人（0.77）で前月比100%、尖圭コンジローマ442人（0.46）で前月比90%、淋菌感染症972人（1.0）で前月比102%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は38人（5.4）で前月比109%と増加した。また昨年8月（5.7）とほぼ同数であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数32人（4.6）で、前月の1.6倍、前年の約1.3倍であった。日南（8.0）、宮崎市（7.0）、延岡（6.0）保健所からの報告が多く、70歳以上が全体の約7割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数6人（0.86）で、前月・前年の約4割であった。宮崎市（5.0）保健所からの報告が多く、1歳から9歳が全体の約8割を占めた。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告はなかった。

【全国】 定点医療機関総数：468

定点医療機関からの報告総数は2,563人（5.5）で、前月比99%であった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症2,164人（4.6）で前月比103%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症340人（0.73）で前月比74%、薬剤耐性緑膿菌感染症59人（0.13）で前月比144%であった。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2010年 第37週(09月13日～09月19日)

疾病名		第36週	第37週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	2										
	定点あたり	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	51	45	3	5	19			1		17	
	定点あたり	1.42	1.25	0.30	0.83	4.75	0.00	0.00	0.25	0.00	4.25	0.00
咽頭結膜熱	報告数	16	20	4	3	3	9	1				
	定点あたり	0.44	0.56	0.40	0.50	0.75	3.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	37	26	7	4	3		1	1		6	4
	定点あたり	1.03	0.72	0.70	0.67	0.75	0.00	0.33	0.25	0.00	1.50	4.00
感染性胃腸炎	報告数	237	216	37	61	13	15	28	19	7	22	14
	定点あたり	6.58	6.00	3.70	10.17	3.25	5.00	9.33	4.75	7.00	5.50	14.00
水痘	報告数	32	17	8	2	4					3	
	定点あたり	0.89	0.47	0.80	0.33	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.75	0.00
手足口病	報告数	93	61	16	8	19	2	2	9		4	1
	定点あたり	2.58	1.69	1.60	1.33	4.75	0.67	0.67	2.25	0.00	1.00	1.00
伝染性紅斑	報告数	8	11	1	6			4				
	定点あたり	0.22	0.31	0.10	1.00	0.00	0.00	1.33	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	41	47	13	11	8	1	4	3		7	
	定点あたり	1.14	1.31	1.30	1.83	2.00	0.33	1.33	0.75	0.00	1.75	0.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	28	16	1	3	4	7				1	
	定点あたり	0.78	0.44	0.10	0.50	1.00	2.33	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	71	82	19	4	28	2	1	2		26	
	定点あたり	1.97	2.28	1.90	0.67	7.00	0.67	0.33	0.50	0.00	6.50	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	40	34	28	6							
	定点あたり	6.67	5.67	9.33	3.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数

下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2010年第1週～第37週)

2類感染症	結核	151例(3)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	45例(1)				
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	3例	つつが虫病	1例
	デング熱	1例	日本紅斑熱	3例	マラリア	2例
	レジオネラ症	2例				
5類感染症	アメーバ赤痢	3例	ウイルス性肝炎	7例	急性脳炎	6例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	後天性免疫不全症候群	3例	梅毒	5例
	破傷風	3例	麻しん	1例		

()内は今週届出分、再掲

こども感染症情報

食中毒に注意しましょう。(9月13日~9月19日)

朝晩は涼しくなってきましたが、日中は厳しい暑さが続いています。食中毒の発生や腸管出血性大腸菌感染症（O157 等）の感染が発生しやすい気象条件になっています。家庭内ではつぎのことに注意し予防しましょう。①調理の前、食事の前、トイレの後、介護や看護の後は石けんで十分に手を洗いましょう。②台所は整理整頓し、まな板やふきんなどの調理器具はきれいに洗い、消毒を行うなどして清潔に保ちましょう。③ハエ、ゴキブリ等は駆除しましょう。④食材は流水で十分に洗い調理しましょう。⑤肉や魚などの生鮮食品はできるだけ早く調理しましょう。⑥調理するときは、食材を十分に加熱しましょう。⑦冷やして食べるものや加熱できないものは食べる直前まで低温（10 度以下）で保管しましょう。⑧できあがった料理はなるべく早く食べるようにしましょう。⑨冷蔵庫内の清掃を定期的に行いましょう。

食中毒を防ぐためには、これらのことを日頃から心がけておくことが大切です。

下痢や嘔吐などで脱水症状を起こさないよう注意し、体調が悪いときには無理をせず早めに医療機関を受診しましょう。